

シンポジウム  
SymposiumThe 2nd North America-Japan Enzyme  
Technology Symposium

2025年9月22日、米国ミネソタ州ミネアポリスにて、「The 2nd North America-Japan Enzyme Technology Symposium」をミネソタ大学と当社の共催で開催しました。本シンポジウムは、2023年に続く第2回の開催です。ミネソタ大学と東京大学は相互訪問を通じて研究連携を深めています。今回の当社共催シンポジウムは、東京大学のミネソタ大学訪問という交流行事に合わせて行うことで、幅広い研究交流の実現を目指しました。

会場には約70名が来場し、オンライン配信には約45名が参加しました。招待講演では、日本と米国から招いた計8名の研究者が、酵素の高機能化やプラスチック分解酵素の開発など、循環型社会の実現に向けた酵素の持つ可能性について成果を発表し、活発な議論が行われました。

また、ポスターセッションおよびフラッシュトークでは、大学院生・若手研究者13名が発表を行いました。閉会式では、当社から優秀ポスター賞を2名に授与し、若手研究者の今後の活躍に期待を寄せました。

今回のシンポジウム開催にあたり、ご協力いただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。今後も酵素研究の発展に貢献し、国内外で定期的にシンポジウムを開催してまいります。



## 演者・所属

Kate Adamala	ミネソタ大学
Hal Alper	テキサス大学
古園 さおり	東京大学
Huimin Zhao	イリノイ大学
Michelle Chang	プリンストン大学
伏信 進矢	東京大学
Romas Kazlauskas	ミネソタ大学
石原 聡	天野エンザイム

シンポジウム  
SymposiumEnzyme Technology:  
New Opportunities for AMANO-HUS Collaboration

2025年10月24日、ベトナム・ハノイ市にて「Enzyme Technology: New Opportunities for AMANO-HUS Collaboration」を、ベトナム国家大学ハノイ自然科学大学(VNU-HUS)と当社の共催で開催しました。本ワークショップは、2024年に開催した「第2回アジア太平洋酵素技術シンポジウム」に続いて、ベトナムにおける酵素技術研究の促進を目的として実施したものです。

当日は、約60名の教員・学生が参加しました。日本およびベトナムから計5名の研究者が講演を行い、天然化合物の生合成酵素やベトナムにおける微生物

資源について研究成果を発表しました。会場では活発な質疑応答が行われ、両国の研究者が交流を深める貴重な機会となりました。

今後もこのような学術交流を継続し、両国の酵素研究および産学連携の発展に貢献してまいります。

